

18. 引用・参考文献の出典の書き方

レポートや論文を書くときには、本やインターネット上の資料を参考にした上で、自分の考えをまとめるという作業を行うことになります。このときに参考にした他人の文章や写真、絵・イラスト、図、表、調査データ、事例、アイディアは、その出典を参考文献リストとして、レポート・論文の中で明記しなくてはなりません。他人の文章などをそのまま引用する場合にも、どの部分が他人の文章なのかを明確に示した上で、出典を書かなくてはなりません。これを怠ると、盗用（＝著作権の侵害）ということになってしまいます。場合によっては著作者の許諾を得ることなどを意識することも必要です。

以下に、参考文献や引用文献の出典の書き方のひとつの例を示しますが、学科や先生から指定された書き方がある場合にはその指示に従って、統一的な方法で記述してください（出典の書き方のルールは、分野や学会等によって多少違います）。ただし、書き方が多少違って最低限必要となるデータは共通していますから、資料にあたったら以下に示したデータをメモしておきましょう。

a) 図書

必要なデータ：

著者名 {編者名, 訳者名}, 書名, {版表示}, 出版社名, 出版年, {巻数}, 該当ページ, {(シリーズ・叢書名)}, {(ISBN)}

・共著の場合は、カンマで区切って記すか、最初の1人の著者名のみを記し後ろに「ほか」と記す。

(例)

藤野幸雄, 荒岡興太郎, 山本順一 藤野幸雄「ほか」

・ {} 内は、該当データがある場合のみ記す。

・ 書名は和書では『 』、洋書はイタリック体で示す。

・ 版表示は、初版は略してよい。

・ 図書の一部の場合は、当該部分のタイトルも記す。

・ ISBN は「国際標準図書番号」といって、個々の図書の識別（国名、出版社名、書名）のために1冊の本に1つ与えられた番号です。ISBN がわかれば、後からまたその資料を探したくなったとき等に便利なので控えておくようにしましょう（※古い書籍にはついていません）。

(和書の実例)

● 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』, 講談社, 2002, p. 43-73. (講談社現代新書) (ISBN 4-06-149603-4)

● ミヒャエル・エンデ, 大島かおり訳『モモ』, 岩波書店, 1976, p. 171.

● 山口源治郎「公立図書館における基準法制および基準づくり」(日本社会教育学会編『社会教育関連法制の現代的検討』東洋館出版社, 2003.) p. 128-129.

(洋書の実例)

- Wilga Rivers, *Teaching Foreign Language Skills*, (University of Chicago Press, 1981), p.82
- James W. Marquart, John Stuart, and Jonathan Kane, *The Music of Poetry*, (Oxford U.P., 1986)

b) Web ページ

必要なデータ :

著者名〔サイトの運営主体〕「Web ページのタイトル」〈URL〉(最終アクセス年月日)

(インターネット情報の実例)

- 科学技術振興機構「科学技術情報流通技術基準—参照文献の書き方—」
〈<http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/sist02/sist02.htm>〉(最終アクセス 2004 年 4 月 12 日)
- ※ 電子ジャーナルや電子図書の場合には、雑誌や図書の書き方に準じ、URL と最終アクセス日を付け加えればよいでしょう。

c) 紀要や雑誌の論文・記事

必要なデータ :

著者名「論文・記事のタイトル」『雑誌名』{巻数, } 号数, 発行年. 月, 該当ページ.

- ・論文名を、和文は「 」、欧文は“ ”の中に書く。
- ・雑誌名・学術誌名を、和文は『 』、欧文はイタリックにする。

(和文の実例)

- 高橋正治「大和物語 D 系統本の系統」『清泉女子大学紀要』通号 43, 1995. 12, p. 9-30.

(欧文の実例)

- T. A. Knightley, “Emma Woodhouse and Her Rival Characters”, *English Literary Review*, No. 133 (1914),
p.1-15.

d) 新聞記事

必要なデータ :

〔著者名〕「記事のタイトル」『新聞紙名』発行年月日, 朝夕刊の別, 版数, 面数.

(新聞記事の実例)

- 「全日制高校の在学生大検受検可能に一中教審が中間報告案一」『日本経済新聞』2004 年 5 月 10 日, 朝刊, 14 版, 34 面.